

保育者・教員養成におけるピアノ初心者の
「弾き歌い」指導法の実践と課題
—音楽リテラシー育成のために—

Implementation of and problems in the teaching method for “singing and playing the piano” for beginners of piano playing among students in a child care worker and teacher training program – To instill and develop music literacy –

澤 田 悦 子
Etsuko SAWADA

片 寄 ま す み
Masumi KATAYOSE

鈴 木 佳 代
Kayo SUZUKI

保育者・教員養成におけるピアノ初心者の 「弾き歌い」指導法の実践と課題 —音楽リテラシー育成のために—

Implementation of and problems in the teaching method for “singing and playing the piano” for beginners of piano playing among students in a child care worker and teacher training program – To instill and develop music literacy –

澤田悦子 片寄ますみ¹ 鈴木佳代²
Etsuko SAWADA Masumi KATAYOSE Kayo SUZUKI

I はじめに

保育や幼児教育、初等教育における音楽表現の一つとして歌唱活動がある。歌唱活動は、子どもが遊びを通して歌うだけでなく、保育者・教育者が鍵盤楽器を用いて子どもの発達に応じた選曲により、弾き歌いを行う表現もある。平井ら⁽¹⁾は、「弾き歌い」とは「楽譜を読む」「鍵盤を弾く」「音を聴く」「歌詞を読む」「歌を歌う」という5つの事柄を同時進行させるという高度な技能が不可欠であり、さらに授業では「学習者の観察」「学習者の支援」といった児童や生徒を指導する能力が必要となると述べている。その中で「鍵盤を弾く」という事は、伴奏としてピアノを演奏する事であり、「楽譜を読む」や「音を聴く」技能が相互的に関連している。さらに「歌を歌う」ことは、発声しながら「歌詞を読む」「音を聴く」音程やリズムを正確に再現することである。ピアノ学習初心者にとって、5つの事柄を同時に行い演奏することは、とても難しい作業であり、ピアノ演奏の技術力と歌唱力の熟達がなければ成り立たない。前年度の本学における楽曲と歌唱の指導は、先ずピアノ演奏力の向上に重きをおいてきた。しかし、ピアノ学習初心者は、両手奏、読譜、指番号、歌唱に苦手意識があり、上達の為には練習が必要と理解しつつも弾く事から遠ざかってしまう傾向がみられた。そこで、今年度のピアノ学習初心者への指導は、ピアノ演奏力だけでなく、弾き歌いにおける伴奏や歌唱の音楽基礎力の習得を目指す事とした。三村ら⁽²⁾は、音楽科授業における音楽活動を可能にするものは、様々な音楽的能力であり、特に基礎となるものは音楽リテラシーであると述べている。音楽リテラシーとは、単に楽譜の読み書き能力のことを指すのではなく、そのもととなる、音高感、音程

1 ピアノ演奏家

2 ピアノ演奏家

感、リズム感、音楽的語彙という音楽科の言語と、それらを獲得し使いこなす能力すなわち聴取感、弁別力、再生力なども含んでいるとしている。

本研究は、学生が弾き歌いにおける音楽リテラシーを身に付けていくための指導法の実践と課題を検討した。

Ⅱ 方法

1. 「音楽実習Ⅰ」ピアノ実技演習

音楽実習Ⅰでは、ピアノ実技演習を1年前期に行い、集団指導と進度に応じた個人指導としている。

2. 履修目標

初心者の場合、音楽実習Ⅰの履修目標は基礎知識、ピアノの演奏基礎技能の習得、音楽に対する意欲の向上を目指す。初心者の楽曲教材は、バイエルである。経験者は、個別習熟度レベルに応じてブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム1・2から学習する。歌唱教材は、小学校共通教材学習と童謡、唱歌の伴奏法を学び、取り扱いの意義と教材研究、指導法を実習する。

3. 歌唱教材

(1) 幼児教育コース歌唱教材

朝のうた、あくしゅでこんにちは、どこでしょう、おかえりのうた、よがあげた、おべんとう

小学校共通教材

第1学年 うみ、かたつむり、日のまる、ひらいたひらいた

第2学年 かくれんぼ、春がきた、虫のこえ、夕やけこやけ

(2) 初等教育コース

第1学年 うみ、かたつむり、日のまる、ひらいたひらいた

第2学年 かくれんぼ、春がきた、虫のこえ、夕やけこやけ

第3学年 うさぎ、茶つき、春の小川、ふじ山

4. 音楽実習Ⅰ

(1) 環境

本学は、個別指導教室と集団指導教室が隣接しており、隣接壁の1部はガラス窓で仕切られ、両教室の学生の様子を把握しやすい構造となっている。個別指導室は、防音室でグランドピアノ1台とトムソン椅子2脚、パイプ椅子複数脚、長机1台が設置されている。集団指導教室は、マスター電子ピアノ1台(指導者用楽器)と他16台の電子ピアノ(学生用楽器)が接続されており、

各電子ピアノにはヘッドフォン2個, 高低可動椅子と高低固定椅子が1脚ずつセットされている。演奏する楽器の音はヘッドフォンを通してのみ聴く事と指導している。従って, 其々が練習する際に, 他者の弾く電子ピアノ音が聴こえて演奏や練習に支障をきたすという事がなく, 自己研鑽に励むことが出来る。

(2) 指導展開方法

個別指導室と集団指導教室それぞれに1名ずつ教員が配置され, 個別レッスン・弾き歌いと歌唱レッスン・自主練習の3つのグループに分けた展開で, 指導している。個別指導室では, 1名の学生がバイエルと弾き歌い曲のレッスンを受講し, 同じグループ内の他の学生達はレッスンを聴講している。集団指導教室では, 2つのグループの指導を展開している。マスターピアノで弾き歌いの歌唱と伴奏指導を行うが, 範唱や範奏は教員だけでなく学生にも取り組ませている。もう1つのグループは各自の進度に合わせてバイエルと弾き歌い曲の自主練習に取り組み, わからない点や演奏に困難を感じている点を指導者に伝え, その都度, 指導を受けている。補助教材として, ト音譜表・ヘ音譜表の音符の早読み, 鍵盤上のポジション確認などを目的とする読譜ドリルと視唱ドリルを活用している。

5. 進度表

進度表は, 学生が毎週レッスンを受ける曲と担当教員の指導を受けて学習する内容や課題を記入している。現在の進度の把握と振り返りの確認をすることができ, 次回までの課題を明確にして練習に励むことが出来る。

6. 調査対象・時期

音楽実習 I の講義を履修している教育学科1年の学生を対象としたアンケート調査を行い, 初等教育コース53名, 幼児教育コースの19名, 計72名から回答を得られた。

7. 調査方法

調査は, 音楽実習 I で3回実施し, 無記名によるアンケート形式で選択項目と自由記述の内容で行った。

8. 調査内容項目

(1) 入学直後に, 12の質問項目から現在のピアノ学習経験や進度を調査した。

- ①入学前の鍵盤楽器の学習経験の有無, 学習期間については, 継続中の場合, 何年くらい学習しているのか, 学習経験はあるがやめている場合は, やめてから何年くらい経過しているのか, を記述する。
- ②鍵盤楽器の学習経験年数については, 1年未満 (12カ月未満), 1年, 2～4年, 5～9年, 10年以上, から選択し記述する。

- ③学習していた鍵盤楽器については、ピアノ、電子オルガン、キーボード、オルガン、その他の楽器、から選択し記述する。
 - ④学習経験がある場合、どのような指導者から指導を受けたのかについては、音楽教室・個人のピアノ教室、学校の音楽教員、親・兄弟・姉妹・親戚、独学、その他があれば記述する。
 - ⑤現在の住居での練習用鍵盤楽器の有無については、自宅にある、自宅にない、から選択する。実家から離れている場合は現在居住している住居で考えて記述する。楽器が有る場合は、ピアノ、電子オルガン、キーボード、オルガン、その他の楽器、から選択し記述する。
 - ⑥鍵盤楽器学習経験者の学習した楽曲・テキストについては、バイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバム、ソナタアルバム、覚えていない、その他、の学習経験を記述する。学習未経験者は、全くない、を選択する。
 - ⑦読譜について、楽譜が読める状態を（複数回答可）ト音譜表・ヘ音譜表の両方、ト音譜表のみ、ヘ音譜表のみ、音符の長さは理解している、から選択する。
 - ⑧保育者・教育者にとってのピアノ演奏の必要性について、入学前はどのように考えていたかについては、ピアノが弾ける事は必要、ピアノはあまり必要としていない、から選択し記述する。
 - ⑨入学前のピアノ学習課題の取り組みについては、意欲的に取り組んだ、取り組んだ、少し取り組んだ、全く取り組まなかった、から選択し記述する。
 - ⑩第1回目の講義で弾く予定の曲がある場合、バイエル、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム1・2、ソナタアルバム1・2、から選択する。提示した曲以外の場合は、その他、に記入する。弾く予定がない場合は、演奏予定なし、を選択する。
 - ⑪1週間内に練習する目標日数とその理由については、毎日、5～6日、3～4日、2日、1日、全くできそうにない、から選択し理由を記述する。
 - ⑫音楽実習Ⅰの最終講義までの達成目標については、自由記述とする。
- (2) 前期実技試験後に、5つの質問項目からピアノ演奏と弾き歌いの上達度や達成感などの調査を行った。
- ①入学後は、どのような楽器を使用して練習をしたか、については、ピアノ、電子オルガン、キーボード、オルガン、大学（練習室）のピアノのみ、大学のピアノと自宅の鍵盤楽器、実家に楽器はあるが遠方のため新たに練習用楽器を購入した、から選択する。楽器を購入した場合は楽器名も記入する。
 - ②前期のピアノ・弾き歌いの目標は達成できたか、については、目標はそれぞれ自由記述とし、目標の結果は、達成できた、少し達成できた、達成できなかった、から選択する。
 - ③読譜ドリルを活用し役立ったと思う点、また、少し活用した・活用しなかった場合の理由は自由記述とする。
 - ④ピアノを弾く時・歌う時どのような難しさを感じているか3つ選び、難しいと感じた順に記入してください、については、譜読み・ト音記号譜・ヘ音記号譜・大譜表、両手奏、指

をスムーズに動かすこと、音のミスに気が付くこと、進度表の活用方法、弾きながら歌詞をつけて歌うこと、曲のテンポ（速さ）設定、楽典（記号、強弱、拍子、調性、＃＼）などの理解、指使い、和音奏、レガート奏、リズムの理解、歌い方・発声方法、曲のイメージを把握すること、から選択、その他があれば自由記述する。

⑤夏休み中のピアノと弾き歌いの目標と目標を達成する為の取り組み計画を具体的に記すことに関しては、すべて自由記述とする。

(3) 前期終了後に、ピアノ演奏と弾き歌いの振り返りとして、ピアノ進度表の記入。実技試験を終えての感想は自由記述とする。

9. 「音楽実習Ⅱ」ピアノ到達目標

音楽実習Ⅱは、ピアノ実技演習の1年後学期科目であり、集団指導と個人指導を行っている。個人指導では進度に応じて選曲している。ピアノ演奏技能、表現力の向上を目指すと共に弾き歌いの伴奏実技、歌唱表現の向上を目標とする。夏休み中のピアノ学習や弾き歌いの取り組み、読譜ドリル・視唱ドリルの活用方法などについてアンケート調査を行い、どのような指導が必要であるか検証し取り組む事とする。

Ⅲ 結果

教育学科初等教育コース53名と幼児教育コース19名、合わせて72名に音楽実習Ⅰにおけるアンケート調査を行い、回答を得た。

(1) 入学前の鍵盤楽器の学習状況を把握する為に、ピアノ実技に関する12項目のアンケート調査を行った。

①入学前の鍵盤楽器の学習経験の有無は、「経験あり」が30名（41.7%）、「経験なし」が42名（58.3%）であった。「経験あり」の中でも、「現在学習継続中」の学生は、1ヵ月が1名（3.3%）、2ヵ月が4名（13.3%）であり、9ヵ月が1名（3.3%）、「やめてからの経過期間」は、1年6ヵ月が1名（3.3%）、3年は4名（13.3%）、5年は1名（3.3%）、6年が5名（16.7%）、7年は3名（10.0%）、8～10年以上は6名（20.0%）となっている（表1-1、1-2）。

②鍵盤楽器の学習経験年数については、1年未満が1名（3.3%）、1年が3名（10.0%）、2～4

表1-1 入学前の鍵盤楽器の学習経験 (名・%)

経験あり	30 (41.7)
経験なし	42 (58.3)

表1-2 入学前の鍵盤楽器の学習 (名・%)

学習継続中	1ヵ月	1 (3.3)
	2ヵ月	4 (13.3)
	9ヵ月	1 (3.3)
やめてからの経過期間	1年6ヵ月	1 (3.3)
	3年	4 (13.3)
	5年	1 (3.3)
	6年	5 (16.7)
	7年	3 (10.0)
	8年	2 (6.7)
	9年	1 (3.3)
	10年	3 (10.0)

年は8名(26.7%), 5~9年が11名(36.7%), 10年以上は6名(20.0%)であった(表2)。

③学習していた鍵盤楽器は、ピアノが24名(80.0%)と多く、次に電子オルガン10名(33.3%), キーボード7名(23.3%), オルガン1名(3.3%), 鍵盤ハーモニカ2名(6.7%)であった(表3)。

④鍵盤楽器の指導者については、音楽教室・個人のピアノ教室が24名(80.0%), 学校の音楽教員が11名(36.7%), 親・兄弟・姉妹・親戚は1名(3.3%)で、独学は4名(13.3%)であった(表4)。

⑤自宅での鍵盤楽器の有無については、「自宅にある」が38名(52.8%), 「自宅にない」は34名(47.2%)であった(表5-1)。さらに自宅にある楽器の種類については、(複数回答可)ピアノ14名(36.8%), 電子オルガン9名(23.7%), キーボード18名(47.4%), 電子ピアノ2名(5.3%)であった(表5-2)。

⑥今までに学習した曲については、バイエルが10名(13.9%), ブルグミュラー25の練習曲は3名(4.2%), ソナチネアルバムが4名(5.6%), ソナタアルバムは1名(1.4%), 未回答は3名(4.2%)であった。また、「全く学習経験がない」は34名(47.2%)であり、バイエルの学習経験者も含めると61.1%, 約6割の学生が初心者であることがわかる(表6)。

⑦読譜経験の有無については、「読譜経験がある」が48名(66.7%), 「読譜経験がない」が24名(33.3%)であった(表7-1)。読譜経験有りのうち「ト音譜表・ヘ音譜表の両方」を読めるが31名(64.6%), 「ト音譜表のみ」が16名(33.3%), 「ヘ音譜表のみ」は0名(0.0%), 「音符の長さを理解している」は13名(27.1%)であった(表7-2)。

⑧保育者・教育者にとってのピアノ演奏の必要性については、「保育・教育者にはピアノを

表2 鍵盤楽器の学習経験年数 (名・%)

1年未満	1 (3.3)
1年	3 (10.0)
2~4年	8 (26.7)
5~9年	11 (36.7)
10年以上	6 (20.0)

表3 学習していた鍵盤楽器 (名・%)

ピアノ	24 (80.0)
電子オルガン	10 (33.3)
キーボード	7 (23.3)
オルガン	1 (3.3)
その他(鍵盤ハーモニカ)	2 (6.7)

表4 鍵盤楽器の指導者 (名・%)

音楽教室・個人のピアノ教室	24 (80.0)
学校の音楽教員	11 (36.7)
親・兄弟・姉妹・親戚	1 (3.3)
独学	4 (13.3)

表5-1 自宅の鍵盤楽器の有無 (名・%)

ある	38 (52.8)
ない	34 (47.2)

表5-2 自宅の鍵盤楽器の種類 (名・%)

a. ピアノ	14 (36.8)
b. 電子オルガン	9 (23.7)
c. キーボード	18 (47.4)
d. オルガン	0 (0.0)
e. その他(電子ピアノ)	2 (5.3)

表6 今までに学習した曲 (名・%)

バイエル	10 (13.9)
ブルグミュラー25の練習曲	3 (4.2)
ソナチネアルバム1	4 (5.6)
ソナタアルバム1	1 (1.4)
その他	7 (9.7)
全くない	34 (47.2)
覚えていない	10 (13.9)

弾ける事が必要」が67名 (93.1%), 「ピアノはあまり必要としていない」が4名 (5.6%), 未回答1名 (1.4%) であり, ほとんどの学生がピアノを弾ける事が必要と感じていることがわかる (表8)。

⑨入学前のピアノ学習課題については, 「意欲的に取り組んだ」5名 (6.9%), 「取り組んだ」4名 (5.6%), 「少し取り組んだ」18名 (25%), 全く取り組まなかった44名 (61.1%), 未回答1名 (1.4%) であった (表9)。

⑩第1回目の講義で弾く予定曲については, 「演奏予定なし」が40名 (55.6%), 「バイエル」6名 (8.3%), 「未定」5名 (6.9%), 未回答は13名 (18.1%) であった (表10)。特に演奏曲を指定したわけではないため, 弾かないと回答した学生もいたが, その他8名 (11.1%) の中には蝶々2名 (2.8%) なども含まれ, 意欲的に選曲した学生もいた。

⑪音楽実習 I の最終講義までの達成目標については, 「弾き歌いができるようになる」「で

きるだけ弾ける曲を増やす」「楽譜を読むようになり, 簡単な曲をマスターする」は共に7名 (9.7%), 「24曲の本伴奏・簡易伴奏・暗譜演奏ができる」は6名 (8.3%), 「楽譜を見ただけでスラスラ弾けるようになりたい」は5名 (6.9%), 「予習復習をし, ピアノの基本を覚えて弾けるようにする」は4名 (5.6%) であった。「多くの技術を学び, バイエル No.60を弾けるようにしたい」「小1～小6までの曲を全て完成させること」「昔よりも弾けるようになりたい」は共に3名 (4.2%), 「教員採用試験に合格するくらい練習をする」「両手奏ができるようになる」は共に2名 (2.8%) 「童謡を弾けるようになる」「テンポや強弱を正しく理解して弾けるようになる」が共に1名 (1.4%), その他, 未回答は21名 (29.2%) であった (表11)。自由な記述欄には, 「全く弾けないので, 一生懸命に頑張る」「これから休まず頑張ります」「毎日練習に励みたい」「諦めずに頑張ります」「初心者なので, とても不安」「ピアノに関して知識が全くないので頑張ります」など, 鍵盤楽器の学習未経験という不安を感じながらも, 今後の学習に意欲を示す学生もいた。

表7-1 読譜の経験の有無 (名・%)

ある	48 (66.7)
ない	24 (33.3)

表7-2 読譜について (名・%)

ト音譜表・ヘ音譜表の両方	31 (64.6)
ト音譜表のみ	16 (33.3)
ヘ音譜表のみ	0 (0.0)
音符の長さを理解している	13 (27.1)

表8 ピアノ演奏の必要性 (名・%)

ピアノを弾ける事が必要	67 (93.1)
あまり必要としていない	4 (5.6)
未回答	1 (1.4)

表9 入学前のピアノ学習課題 (名・%)

意欲的に取り組んだ	5 (6.9)
取り組んだ	4 (5.6)
少し取り組んだ	18 (25.0)
全く取り組まなかった	44 (61.1)
その他 (未回答)	1 (1.4)

表10 第1回目の講義で弾く予定曲 (名・%)

バイエル	6 (8.3)	その他	8 (11.1)
ブルグミュラー	0 (0.0)	演奏予定なし	40 (55.6)
ソナチネアルバム	0 (0.0)	未定	5 (6.9)
ソナタアルバム	0 (0.0)	未回答	19 (26.4)

(2) 教育学科初等教育コース48名と幼児教育コース18名、計66名に音楽実習Ⅰ終了後に振り返りと実技試験を終えてのアンケート調査を行い、回答を得た。

①「入学後、どのような楽器を使用して練習をしましたか」については、ピアノ31名、キーボード24名、電子オルガン12名、オルガン1名、大学のピアノ18名、大学と自宅の鍵盤楽器22名であった。その他、自宅にエレクトーンはあるが、遠方のためキーボードを購入した、自宅に電子ピアノはあるが、遠方のため電子ピアノを購入したであったがそれぞれ1名であった(表12)。

②「前期のピアノ、または弾き歌いの目標は達成できましたか。結果の理由も記入して下さい。(複数回答可)」について、ピアノ目標は、「課題曲を滑らかに演奏する」が最も多く18名(27.3%)、続いて「メロディーを覚えて弾く」が13名(19.7%)、「両手演奏ができる」7名(10.6%)であった。続いて「1曲を通奏できる」「表現力アップ」「バイエルの練習強化」

表11 音楽実習Ⅰの達成目標

(名・%)

・弾き歌いができるようになる	7 (9.7)
・できるだけ弾ける曲を増やす	7 (9.7)
・楽譜を読めるようになり、簡単な曲をマスターする	7 (9.7)
・24曲の本伴奏・簡易伴奏・暗譜演奏ができる	6 (8.3)
・楽譜を見ただけでスラスラ弾けるようになりたい	5 (6.9)
・予習復習をし、ピアノの基本を覚えて弾けるようにする	4 (5.6)
・多くの技術を学び、バイエル№60を弾けるようにしたい	3 (4.2)
・小1～小6までの曲を全て完成させること	3 (4.2)
・昔よりも弾けるようになりたい	3 (4.2)
・教員採用試験に合格するくらい練習する	2 (2.8)
・両手奏ができるようになる	2 (2.8)
・童謡を弾けるようになる	1 (1.4%)
・テンポや強弱を正しく理解して弾けるようになる	1 (1.4%)
・その他、未回答	21 (29.2%)

表12 練習時の使用楽器

・ピアノ	31名	・オルガン	1名
・キーボード	24名	・大学のピアノ	18名
・電子オルガン	12名	・大学と自宅の楽器	22名

表13-1 前期ピアノの目標

(名・%)

・課題曲を滑らかに演奏	18 (27.3)	・1曲を通奏できる	4 (6.1)
・メロディーを覚えて弾く	13 (19.7)	・表現力アップ	4 (6.1)
・両手演奏ができる	7 (10.6)	・バイエルの練習強化	4 (6.1)
・滑らかに演奏する	7 (10.6)	・その他	15 (22.7)

表13-2 前期ピアノの目標達成状況

達成できた21名 (31.8%)	少し達成できた41名 (62.1%)	達成できなかった4名 (6.1%)
・ピアノに慣れた	・自信を持てた	・テストで止まってしまった
・表現力がついてきた	・運指ができるようになった	・楽譜通りに弾くのは大変
・バイエルが進んだ	・滑らかに弾けた	
・テストでミスなく弾けた	・レベルアップしたい	
・ポジションを把握できた	・本番に強弱をつけたい	
・繰り返し練習の成果が出てきた	・8割のできだった	

がそれぞれ4名(6.1%)、その他が15名(22.7%)であった(表13-1)。

ピアノ目標の結果については、「達成できた」が21名(31.8%)で、理由として「ピアノに慣れた」「表現力がついてきた」「バイエルが進んだ」「テストでミスなく弾けた」「ポジションを把握できた」「繰り返し練習の成果が出た」があげられた。「少し達成できた」は41名(62.1%)と一番多く、理由として「自信を持てた」「運指ができるようになった」「滑らかに弾けた」「レベルアップしたい」「本番に強弱をつけたい」「8割ぐらいのできだった」があげられた。なお、「達成できなかった」は4名(6.1%)で、「テストで止まってしまった」「楽譜通りに弾くのは大変」であった(表13-2)。

弾き歌い目標については、「声を出す」が17名(25.8%)と一番多く、続いて「止まらずに弾き歌い」「ピアノと歌の協調性」がそれぞれ8名(12.1%)となっている。「ピアノも歌もはっきり」は7名(10.6%)で、「表現を意識する」は5名(7.6%)、「その他」は21名(31.8%)であった(表14-1)。

弾き歌いの目標の結果については、「達成できた」が9名(13.6%)で、理由として「大きな声で歌えた」「緊張せずに歌えた」「伴奏より自分の声が聞こえた」「弾き歌いのできた」「6曲弾けるようになった」があげられる。「少し達成できた」は39名(59.1%)であり、理由として「声は出たが伴奏のミスが多かった」「苦手部分の克服に苦労した」「弾きながらではお腹に力が入らず声が出なかった」「本番でも平常心で歌いたい」「声を出せるようになった」「1曲未完成だった」「弾き歌いできていなかった」「ペダルの練習が必要」であり、理由として「練習不足だった」「失敗が多かった」「大変緊張した」「伴奏に余裕

表14-1 前期弾き歌いの目標 (名・%)

・声を出す	17 (25.8)	・ピアノも歌もはっきり	7 (10.6)
・止まらずに弾き歌い	8 (12.1)	・表現を意識する	5 (7.6)
・ピアノと歌の協調性	8 (12.1)	・その他	21 (31.8)

表14-2 前期弾き歌いの目標達成状況

達成できた9名 (13.6%)	少し達成できた39名 (59.1%)	達成できなかった16名 (24.2%)
<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で歌えた ・緊張せずに歌えた ・伴奏より自分の声が聞こえた ・「弾き歌い」のできた 	<ul style="list-style-type: none"> ・声は出たが伴奏のミスが多かった ・苦手部分の克服に苦労した ・弾きながらではお腹に力が入らず声が出なかった ・本番でも平常心で歌いたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習不足だった ・大変緊張した ・伴奏に余裕がない ・人前では上手くできなかった ・「弾き歌い」のできなかった

表15 譜読みドリルの活用状況

活用した14名 (21.2%)	少し活用した35名 (53.0%)	活用しなかった15名 (22.7%)
<ul style="list-style-type: none"> ・音符が読めるようになった ・楽譜の早読みができた ・手のポジションを理解した 	<ul style="list-style-type: none"> ・途中で読めるようになった ・復習程度に使った ・自分で考えた方法がある ・実技に時間を費やした 	<ul style="list-style-type: none"> ・譜読みの心配はない ・忘れていた ・時間の余裕がなかった ・見る気持ちがなかった

がない」「右手のみしか弾けなかった」「人前では上手くできなかった」「弾き歌いができなかった」があげられた（表14-2）。

- ③譜読みドリルについては、「活用した」が14名（21.2%）で、結果として「音符が読めるようになった」、「楽譜の早読みができた」、「手のポジションを理解した」があげられる。「少し活用した」は35名（53.0%）で、理由は「途中で読めるようになった」「復習程度に使った」「自分で考えた方法がある」「実技に時間を費やすことができた」であった。なお、「活用しなかった」15名（22.7%）の理由は「譜読みの心配はないから」「時間の余裕がなかったから」「見る気持ちがなかったから」であり、あと未回答は2名（3.0%）であった（表15）。
- ④ピアノを弾く時や弾き歌いの時に感じる難しさについては、ピアノ演奏は、「両手奏」が19名（28.8%）と一番多く、次いで「指をスムーズに動かすこと」が12名（18.2%）、「譜読み・ト音記号譜・ヘ音記号譜・大譜表」が9名（13.6%）となっている。弾き歌いの伴奏は、「両手奏」と「運指」がともに13名（19.7%）、次いで「譜読み・ト音記号譜・ヘ音記号譜・大譜表」「曲のテンポ設定」「指使い」が其々6名（9.1%）であり、「歌詞をつけて歌いながら弾く」が5名（7.6%）となっている。弾き歌いの歌は、「歌い方・発声方法」が26名（39.4%）と一番多く、次いで「弾きながら歌詞をつけて歌う」が19名（28.8%）、「両手奏」「曲のテンポ設定」がともに5名（7.6%）となっている（表16）。

表16 難しさを感じること

(名・%)

	ピアノ	弾き歌い (伴奏)	弾き歌い (歌)
1	両手奏 19 (28.8)	両手奏, 運指 13 (19.7)	歌い方, 発声方法 26 (34)
2	運指 12 (18.8)	譜読み, テンポ設定, 指使い 6 (9.1)	弾きながら歌う 19 (28.8)
3	譜読み 9 (13.6)	歌いながら弾く 5 (7.6)	両手奏, テンポ設定 5 (7.6)

表17-1 夏休み中のピアノの目標と取組

- ⑤ピアノ演奏と弾き歌いの改善に向けた夏休みの具体的な目標と取り組み計画については、ピアノ演奏の目標は、「前期のおさらいをし、毎日練習する」「難しい曲にも挑戦する」「両手奏を滑らかに弾けるようにする」「指使い

目 標	取り組み計画
・前期のおさらいをし、毎日練習する	・毎日練習をする
・難しい曲にも挑戦する	・1日1曲練習する
・両手奏を滑らかに弾けるようにする	・3日で1曲仕上げる
・指使いに注意し強弱をつける	・練習時間の確保に努める
・マーチを完璧に弾けるように練習する	・前期より練習量を増やす
・ブルグミュラー、ソナチネの練習を頑張る	・指の訓練をする
・表現力をつける	・表現力を付けるように意識して弾く
・その他	・その他

に注意し強弱をつける」「表現力をつける」などがあげられる。取り組み計画については、「毎日練習をする」「3日で1曲仕上げる」「練習時間の確保に努める」「前期より練習量を増やす」「指の訓練をする」「表現力を付けるように意識して弾く」であった（表17-1）。

弾き歌いの目標は、「笑顔で歌う練習をする」「音程を意識して歌う」「曲のイメージを持って歌う」「プレスや表現力を意識して歌う」「裏声の音量を出しつづきれいに歌う」「簡易伴奏は、全て弾けるようにする」などがあげられた。取

表17-2 夏休み中の弾き歌いの目標と取組

目 標	取り組み計画
・笑顔で歌う練習をする	・発声練習を取り入れる
・音程を意識して歌う	・歌詞（メロディー）を読み込む
・曲のイメージを持って歌う	・曲の背景をイメージして練習
・プレスや表現力を意識して歌う	・伴奏と歌のバランスに気を付ける
・裏声の音量を出しつづきれいに歌う	・和音と歌詞を一緒に覚える
・簡易伴奏は、全て弾けるようにする	・音や曲の特徴を捉える
・その他	・その他

り組み計画は、「発声練習を取り入れる」「歌詞を読み込む」「曲の背景をイメージして練習する」「伴奏と歌のバランスに気を付ける」「和音と歌詞を一緒に覚える」「音や曲の特徴を捉える」であった（表17-2）。

- (3) 教育学科初等教育コース48名と幼児教育コース18名、計66名は、「音楽実習Ⅰ」最終講義終了後に講義を終えての振り返りを進度表に自由記述し、実技試験時に提出している（表18.19）。

表18 音楽実習Ⅰピアノ進度表より

ピアノ演奏	弾き歌い
・だんだん弾けるようになり楽しくなった。好きになった。弾ける事を実感した。	・初めは恥ずかしさがあったが、慣れてくると思いっきり歌えるようになった。
・スタッカート、スラー、タイを付けて曲のイメージに合わせる事ができた。	・音量を出し、伴奏もミスなく弾けるようになりたい。
・記号を意識するだけで曲に表情が付いたように感じ、演奏が楽しくなった。	・発音よく、歌詞の意味を考えて、大きな声で歌えるようになりたい。
・自分の感情を乗せることで、表現できることがわかった。	・声が出ず苦戦したが、最後には伴奏と歌のバランスを考えながら歌えた。
・自分が思っていた以上に弾けるようになったので、後期は更に技術力アップと表現力も身に着けたい。	・声が出ない。伴奏を付けると歌えない。おなかから声を出すこと、左手と歌だけの練習など取組み方を工夫した。
・音符をすぐ読めるようにしたい。	・伴奏は、レガート奏を目指す。
・難しい曲にも積極的に取り組んでいきたい。	・強弱記号を意識して練習した。楽譜が複雑になっていくので練習を重ねたい。
・自分なりに課題を見つけ、スキルアップをしたい。	・夏休み中に、音符読みを完璧にしたい。
・ぜんぜん上手くならず、後悔している。	・レパートリーを増やしたい。
・友人のサポートが大きかった。	・弾き歌いは自信がない。
・15回を通して、以前よりピアノに興味を持った。	・弾き歌いは初めてだったので、良い経験になった。
・適切なアドバイスももらえたので、個人レッスンが楽しみだった。	・全3曲ミスをせずに弾けたし、大きな声で歌えるようになった。

表19 実技試験を終えて

・テスト本番の緊張感は、いつもと違うと感じた。緊張感に慣れたい。
・テストでミスをしたので練習不足だったと気が付いた。
・モデラートの曲だったので、テンポを意識して弾いた。
・気を付けたいポイントはクリアしたが、他の部分が悔しい結果になってしまった。
・テストに向けて自分なりに練習したが、弾けるようになったのはごくわずかだった。
・少し難しい曲に挑戦してみたが、ミスをしてしまった。
・途中でミスをして止まらずに集中して演奏を続けられた事は、評価したい。
・部分練習をして、次のテストに臨みたい。 ・テストではNOミスで弾きたい。
・自分の精一杯を出したいと思った。 ・これからも練習を重ね、上達していきたい。
・本番で単調な演奏になってしまい残念。 ・15回の講義はあっという間だった。
・試験会場のピアノは、いつもより鍵盤が軽く感じた。 ・人前での演奏は緊張した。

(4) 調査は、教育学科初等教育コース42名と幼児教育コース14名、計56名に対し音楽実習Ⅱで1回実施し無記名によるアンケート形式で選択項目と自由記述の内容である。アンケート調査は、夏休み中のピアノ学習や弾き歌いの取り組み、読譜ドリル・視唱ドリルの活用方法など7の質問項目から調査を行った。

表20 夏休み中の弾き歌いとピアノの目標

弾き歌い	ピアノ
・歌詞の意味を理解する	・指の練習のため毎日弾く
・リズムや音程、ブレスを意識して練習	・今までの復習
・歌声を良くする	・練習中の曲は仕上げる
・毎日弾く	・すらすら弾けるまで練習する
・指使いを完全に覚える	・バイエルNo80以降を弾けるように練習
・知らない曲は調べて練習	・ブルグミュラー（アラバスク）の練習

表21 夏休み中の目標達成状況

(名・%)

弾き歌い		ピアノ	
・達成できた	3 (5.4)	・達成できた	8 (14.3)
・少し達成できた	34 (60.7)	・少し達成できた	30 (53.6)
・達成できなかった	19 (33.9)	・達成できなかった	18 (32.1)

①弾き歌いの目標は、前

期の復習と、後期の予習として課題曲をあげている。その中でも、歌唱の目標は「歌詞の意味を理解する」「リズムや音程、ブレスのタイミングを意識して練習」「歌声を良くする」など具体的な内容を示している。伴奏の目標は「毎日弾く」「指使いを完全に覚える」であり、過去に歌った経験がなく知らない曲に関しては、「調べて練習する」であった（表20）。

ピアノの目標は、「指の練習のために毎日弾く」「今までの復習」「練習中の曲は仕上げる」「すらすら弾けるまで練習する」であった。また、「バイエルNo80以降を弾けるように練習」など目標範囲の設定や、「ブルグミュラー（アラバスク）の練習」と具体的に曲名をあげている学生もいた（表20）。

②夏休み中の目標は達成しましたかの項目で、弾き歌いに関して「達成できた」学生は3名（5.4%）、「少し達成できた」は34名（60.7%）、「達成できなかった」は19名（33.9%）であった。

ピアノに関しては「達成できた」が8名(14.3%)、「少し達成できた」が30名(53.6%)、「達成できなかった」が18名(32.1%)であった(表21)。

③読譜ドリルの活用方法

は、弾き歌いの場合、「発声のトレーニングをした」「すぐに音が分かるよう、音読練習」「ピアノで弾きながら

歌う」「正しい音程で歌えるように練習」であった。ピアノの場合は、「練習前に数分読む」「早く読めるまで繰り返し練習」「音を弾いて確認」「練習時の分からない音のみ確認」「帰省時に練習ができない時の読譜練習」であった(表22)。

④読譜ドリルは、ピアノ演奏(ピアノ伴奏)に役立ちましたかの項目では、弾き歌いは、「役立った」15名(26.8%)、「少し役立った」27名(48.2%)、「役立たなかった」13名(23.2%)であった。ピアノでは、「役立った」17名(30.4%)、「少し役立った」25名(44.6%)、「役立たなかった」13名(23.2%)であり、共に76%以上の学生が読譜ドリルを使用し学習に役立っていることが示された。未回答は1名(1.8%)であった(表23)。

⑤視唱ドリルの活用方法は、「空き時間を見つけて読譜や歌唱練習」「正しい音程をとるためにピアノを弾きながら歌う」「読譜ドリルとして友達と問題を出し合う」「ピアノ練習と併用する」「とにかく練習して覚える」であった。その他、ドリルの活用に至らなかった理由として「ピアノ練習のみで、視唱ドリルまでは進めなかった」「ドリルの活用方法がわからなかった」「難しかった」があげられた(表24)。

⑥視唱ドリルは弾き歌いに役立ちましたかの項目では、「役立った」8名(14.3%)、「少し役立った」23名(41.1%)、「役立たなかった」16名(28.6%)であり、未回答は9名(16.1%)であった(表25)。

⑦弾き歌いの動画教材を活用した29名(51.8%)の主な理由は、「曲のイメージを把握できるため」「わからない音・指使いの確認のため」

表22 読譜ドリルの活用方法

弾き歌い		ピアノ	
・発声のトレーニングをした		・練習の前に数分読む	
・すぐに音が分かるよう、音読練習		・早く読めるまで繰り返し練習	
・ピアノで弾きながら歌う		・音を弾いて確認	
・正しい音程で歌えるように練習		・練習時の分からない音のみ確認	
		・帰省時に練習ができない時の読譜練習	

表23 読譜ドリルの効果について

(名・%)

弾き歌い		ピアノ	
・役立った	15 (26.8)	・役立った	17 (30.4)
・少し役立った	27 (48.2)	・少し役立った	25 (44.6)
・役立たなかった	13 (23.6)	・役立たなかった	13 (23.2)

表24 視唱ドリルの活用方法

・空き時間を見つけて読譜や歌唱練習
・正しい音程をとるために、ピアノを弾きながら歌う
・読譜ドリルとして、友達と問題を出し合う
・ピアノ練習と併用する
・とにかく練習して覚える

表25 視唱ドリルの効果について (名・%)

・役立った	8 (14.3)
・少し役立った	23 (41.1)
・役立たなかった	16 (28.6)

め・リズムや和音の確認のため」であり、活用しなかった27名(48.2%)の主な理由は、「活用しなくても弾ける」「見方がわからない」「いらなと思った」であった。

表26 弾き歌いの動画教材の活用とその理由

活用した29名 (51.8%)	活用しなかった27名 (48.2%)
<ul style="list-style-type: none"> ・動画を見た方が覚えると思った ・曲のイメージを把握できるため ・分かりやすかったから ・わからない音、指使いの確認のため ・リズムや和音の確認のため ・演奏のテンポがゆっくりで見やすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・活用しなくても弾ける ・ピアノの先生に聞き、家では自己練習 ・家族に協力してもらった ・見方が分からない ・いらなと思ったから ・消してしまった

Ⅳ 考察とまとめ

幼稚園教育要領⁽³⁾ および保育所保育指針⁽⁴⁾の3歳以上児の保育における感性と表現に関する領域「表現」では、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。そのねらいとして (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむとある。小学校学習指導要領⁽⁵⁾の音楽科の指導内容は「表現」「鑑賞」及び「共通事項」で示されている。「表現」と「鑑賞」は児童が音楽を経験する2つの領域であり、「表現」は歌唱、器楽、音楽づくりから構成される。音楽科の目標においては、音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」について示した。また資質・能力の育成に当たっては、児童が「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付ける音楽的な見方・考え方」が必要とした。共時的体験から個と集団の区別・共有、知性・技術・感性の融合、精神力・意志力の持続等、子供たちの人間形成に音楽の学びは求められており、子ども自らが音や音楽で十分遊び、表現する事を味わうことであり、教育者・保育者が子どもの音楽に関わる活動を受け止め、音楽に親しみ楽しめる環境を工夫することが必要である。先行研究⁽⁶⁾では、近年、教育・保育の現場でCDを再生して歌わせる状況がある。しかし、子供の前で教育者や保育者がピアノを演奏しながら歌って聴かせ、共に歌い、子供たちに応えながら歌うなど、信頼している教育者・保育者から奏でられる生の音や声による歌唱指導は、子供たちが安心して表現や内容を学ぶ健全な育成環境を示しており、弾き歌いには教育的意義があると述べている。本学入学直後のアンケート調査から、学生は教育者・保育者にとってのピアノ演奏の必要性・重要性を理解している事がわかる。

弾き歌いは「楽譜を読む」「鍵盤を弾く」「音を聴く」「歌詞を読む」「歌を歌う」という5つの事柄を同時進行させる高度な技術であり、ピアノ学習初心者にとっては難しい作業である。

前年度の楽曲と歌唱の指導は、先ず演奏技能に重点を置いてきたが、歌唱表現に課題が見えた為、弾き歌いのリテラシー習得を目指す指導とした。ソロとしてのピアノ演奏力、その上に伴奏としての演奏力であり、ソロ演奏とは別の視点からのリテラシーが求められる。

読譜力や視奏・視唱力向上のために読譜ドリルや視唱ドリルを作成し自主学習や講義で活用した。さらに曲の構成の分析を行い、表現の楽しさに繋がる指導をした事で、意欲的に自主学習に取り組んでいることがアンケートからも伺える。初心者自身の練習用の視覚的アプローチとして学生の端末へ動画を配信する事により、学生の殆どが視覚・聴覚双方から情報を得て自学に役立てており、演奏する自信や自己肯定感を促している。また伴奏に繋げる演奏力習得の為、バイエル等の課題も継続している。伴奏については、和音の構成音を理解することで他の伴奏形への移行に反映すると考えられることから、三和音による伴奏形を導入している。単音伴奏形の取り入れも検討しているが、聴覚で旋律との協和・不協和を注意深く吟味する事が必要となる為、和音指導を継続し構成音の理解を深める事は有益であると考え。歌唱は、個人歌唱を行うことで、集団歌唱では判らなかつた声量のなさや歌詞・音程の不安定さが把握できた。アンケートからも歌唱の不安定さや自信のなさが読み取れる。集団指導により発声に必要な身体や呼吸等の使い方を実践している。その結果、歌唱に変化が見えた学生もいるが、さらに声量については、より個々を考慮した指導が必要である。また集団で歌い合い・聴き合い、自他の演奏の相違点を聴き分け、感じたことを共有する事により表現に変化が表れ、聴取力の向上も伺えた。音楽基礎力として、調性やリズム、テンポ、曲の印象を確認し、歌詞から読み取れる情景や感情を曲に関連付ける事により、強弱の変化、両手奏の音量バランス、伴奏と歌唱のバランス、フレーズの扱い、言葉の持つニュアンス等、表現力の向上に繋がってきている。

教育や保育の現場での弾き歌いは、歌唱指導や音楽を通して感じ取ったことを子どもたちと共有し表現する事が求められる。その為、ピアノ学習初心者である学生は音楽基礎力を総合的に習得しなければならない。ピアノ学習初心者の弾き歌いの指導は、ピアノを弾くことに偏りがちであるが、伴奏力、歌唱力、表現力への指導が必要であり、音楽基礎力を涵養し音楽リテラシー育成に配慮していくことが、音楽力や表現力の向上に結びつくことが判る。学生たちが、自らの目指す教育者・保育者に必要な技術を習得するという意識を持ち、達成感や充実感を高めながら積極的に学びに臨める指導を検討し、今後も音楽リテラシー育成を実践していきたい。

引用・参考文献

- (1) 平井李恵 教員養成課程学生に対するピアノ「弾き歌い」指導法の研究, 宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第2号, pp.91-98, 2016
- (2) 三村真弓, 川邊昭子, 徳永崇, 青原栄子, 大橋美代子, 福田秀範, 中村将之, 宮崎将三 音楽リテラシー育成のための基礎的研究 (1) 一階名聴唱課題における階名の認知力と音高の再生力に着目して一広島大学 学部・付属学校共同研究機構研究紀要 (第37号 2009.3)pp.93-98

- (3) 文部科学省 平成29年告示 幼稚園教育要領. p.20 フレーベル館
- (4) 厚生労働省 (2018). 保育所保育指針解説. p.267 フレーベル館
- (5) 小学校教員養成課程用 最新初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 初等科音楽教育研究会 編 pp.8-20 音楽之友社
- (6) 石岡正通 (2012). 幼児の音楽教育と美的人間形成 常磐会短期大学 紀要 第41号 pp.3-20